

### 自主的に早めに避難を!

# 命を守る防災

先月の西日本豪雨では、被災地での犠牲者は14府県200人以上となり、平成最悪の豪雨災害となりました。近年頻発する河川の氾濫、土砂崩れなどの風水害に対し、私たちはどのように命を守ったらよいのでしょうか。静岡県危機管理部中部地域局に話を伺いました。(豊泉義子副編集長)

## 風水害に備える3つのポイント

### 地域を知る ハザードマップの活用



### 災害リスクを色で確認 危険箇所のチェックも!

自分が住んでいる地域の災害リスクを色で確認できるのがハザードマップです。「見たことがないという人が意外と多いですね」と話すのは、静岡県中部地域局・危機管理課主査の沖剛さんです。「市役場などで手に入れたり、市町のホームページで見たりできます。地震・津波・風水害など、災害種別ごとに作られている場合が多いので、風水害のもので確認を。しかしハザードマップの情報を過信するのはいけません。あくまで想定と考え、迅速に行動を。まずは地域を知ることが大切。普段から水路や山などの危険箇所をチェックしておきましょう」。

### 情報収集 テレビ・ラジオ・ネットから



### 最新情報を 入手しましょう

「テレビ、ラジオでは早い段階から、台風や風水害の情報を伝えます。危険な状況になるとニュース速報や、避難所情報などがテロップで流れますから、つけたままの状態にして、最新の情報を確認できるようにしておくとういかもしれません。同報無線でも放送されますが、聞こえにくい場合は市の防災課や危機管理課などに連絡を。インターネットでもさまざまな情報を手に入れることができます。市町村によってメールアドレスを登録をすることで、携帯電話で防災に関する情報を受信できます」

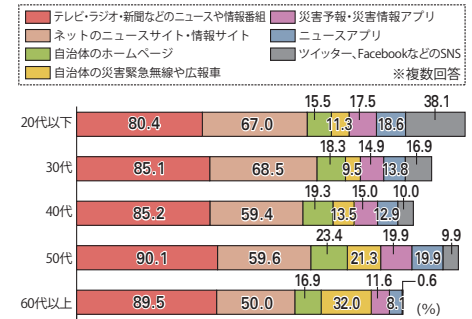
### 早めの避難 自分の判断で 早めに避難



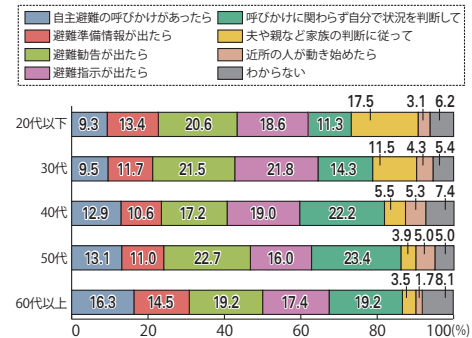
### 経験に 頼りすぎると危険!

『避難勧告』が出ても避難しない人が多いようです。「今まで大丈夫だったから、今回も避難の必要はない」「避難指示(緊急)が出てから」とは思わないでください。近年は台風の大型化などで風水害の被害も大きくなっています。経験に頼りすぎた判断は危険です。また、『避難勧告』が出たときでも立地・状況によってはすでに移動が困難になっている場合も。最新の情報を収集し、その時の状況に応じて、自分で判断することが大切です。早めの避難が基本です」

【表1】「災害情報・災害予測情報の主な情報源は?」



【表2】「市町村からの呼びかけにすぐ避難するか?」



リビング暮らし HOW 研究所の「防災についてのアンケート」一部抜粋: 調査期間/2018年7月11日~16日 調査方法/リビングWeb、シティリビングWeb、あんふぁんWebに開設したフォーム入力によるWebアンケート 集計数/1279人

避難情報を確認・行動		※必ずしもこの順番で発令されるとは限らないため注意	
緊急性 ↓	低	避難準備 高齢者等避難開始	避難に時間を有する人(高齢者、障がいのある人、乳幼児など)とその支援者は避難を開始
	中	避難勧告	速やかに避難場所へ避難 避難場所への移動ががえって危険な場合 ・近所のより安全な建物へ避難する(浸水しない、川に沿ってないなど)
	高	避難指示(緊急)	まだ避難していない人は直ちに避難場所へ避難 ・自宅のより安全な部屋へ垂直避難する(2階以上で山側・川側でない部屋)



### 「静岡県防災ポータル」で情報をチェック!

静岡県での河川の氾濫や地震などによる津波情報などに対して、市町村ごとの避難勧告情報や避難所を紹介。また国・県の関連機関(国土交通省や気象庁など)、交通機関、道路、ライフラインのリンクが貼られています。ツイッターでリアルな情報もチェックできます。「静岡県防災ポータル」で検索すると、左記画面が出ます。

「西日本豪雨被災地の支援を行って」ー増田真之さん体験談ー

実際に西日本豪雨の被災地支援に派遣された静岡岡県中部地域局の主管・増田真之さんに話を伺いました。

「静岡県では7月10日から広島県呉市に職員を派遣することになりました。私は、呉市災害派遣チーム第1陣として1週間、県と市町職員の計10名で支援業務を行いました。現地は被災直後のため陸路が寸断されており、広島市から船舶で呉市に入りました。派遣中、土石流発生や自衛隊の活動地域に避難指示が発令され緊急事態が起きたのですが、自衛隊や消防、警察の方々が一斉に避難してくるのを目の当たりにし、身の危険を感じるとともに災害支援の難しさを体感しました。静岡岡県は、地震に対する備えは高いと思いますが、頻りに起るであらう風水害にも警戒してほしいと思います。豪雨などの危険が迫ったときには、ためらうことなく早めに避難することが自分や家族の命を守ることにつながります」

静岡岡県からの支援は、8月末の第8陣まで予定されているそうです。

自主的に早めに避難を！

命を守る防災

避難する時に持ち出すべき最低限のもの。速やかに持ち出せるようにしておきます

【非常持出品チェックリスト】

- ヘルメット(防災ずきん)
- 懐中電灯、乾電池
- 非常食(乾パン、缶詰など)  飲料水
- 携帯ラジオ  ライター(マッチ)
- ティッシュ  タオル  ビニール袋
- 上着  下着  軍手  救急医薬品
- 常備薬、おくすり手帳
- 貴重品(預金通帳、印鑑など)  現金
- 健康保険証のコピー  携帯電話 など
- ◎家庭の状況に応じて、必要なものをプラス
- ◎リュックの重さは、男性が15kg、女性が10kgほどが目安

非常備蓄品

物資が不足する中、復旧や物資の支援を待つ間、自宅などで自活するためのものです

【非常備蓄品チェックリスト】

- 7日分の食品
- 7日分の水(1人当たり1日3ℓ)
- 燃料  卓上コンロ  毛布、タオルケット
- 洗面用具(歯ブラシ、石けんなど)
- 簡易食器(わりばし、紙皿など)
- ラップ、アルミホイル
- ウエットティッシュ、トイレトペーパー
- 使い捨てカイロ、マスク、新聞紙など
- 簡易トイレ など
- ◎1週間ほど自活できるよう準備を
- ◎普段使いの食品を使っては買い足しする「ローリングストック法」で無理なく備蓄



第1陣の災害派遣チームの皆さん(後列中央が増田さん)

避難場所と避難所の違いは？



避難場所

災害の危険から命を守るために避難する場所のこと。

地震・津波・洪水などの、災害種別ごとに指定されています。災害の状況によっては、指定された避難場所に限らず、より安全な場所に避難することが重要です。

◎台風などの風水害では避難場所として避難所が開設されます。市町の発表する情報に注意を！



避難所

被災して生活の場を失った人などが、一時的に避難生活をするための場所。

避難場所と避難所が同じ場所(例：学校)ということもありますが、厳密にはグラウンドが避難場所、体育館が避難所となっています。

避難情報を確認するには

◆避難情報が発令された場合、テレビ、ラジオ、同報無線、広報車、自治会の連絡網、各市のホームページの緊急情報、下記メールなど、さまざまな方法で情報が伝達されます

【各市の防災メール】「静岡市防災メール」「やいづ防災メール」など、市町によっては、地震・津波・気象などに関する防災メールを配信しています。受信を希望する場合は登録が必要です。各市町のホームページなどで確認ください

【緊急速報メール】携帯電話会社(NTT ドコモ、au、ソフトバンクモバイル各社)のサービスで、気象庁が発信する「緊急地震速報」「津波警報」や市が発信する「災害・避難情報」などの生命に関わる緊急性の高い情報が、緊急速報メール対応携帯電話端末へ一斉配信されます

【テレビ】リモコンのdボタンでデータ放送に切り替えると、各種情報を確認できます

